

かえる便り 30年度7号

平成30年5月15日

新緑の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

あなたは自分の子や生徒を「どのような人に育てたいですか？」と問われたらどの様に答えますか？私自身、子育てで“もっとうしてあげばよかった”と思うことが多々あります。でも、家庭教育で大切な“躰”は厳しくしたつもりです…。爽やかな挨拶や姿勢、約束や時間（遅れない・休まない）を守ることなどです。

人は誰も“人に迷惑を掛けて生きている”と思います。しかし、“意図的に人の迷惑になることをする人”がいます。また、怠慢により迷惑を掛ける人もよくいます。残念なのは、自分の怠惰な行動が人に迷惑を掛けていることに気が付かない人がいることです。“皆で協力すべき時に、怠け自分勝手な行動をする”これは本当に困りものですね!! おそらく後輩からしたら、そのような先輩に指示されることは嫌でたまらないでしょう…。心して行動したいものです。



長嶋茂雄さんは、自主トレで山道を走ることを日課にしていた。息子の一茂さんが自分から一緒に走りたいと言い、走っている時に急斜面に転落したそうです。「自分で決めたことはどんなことがあってもやり遂げろ」と言って一切手助けをせず自力で上がらせ、頂上まで走らせたそうです。しかし、登り切った時、彼を抱きしめ褒めたそうです。成長させるためには必要なことではないでしょうか？

生徒募集の際、ある保護者と話をしたら「よい学校に入れたい」と言われ断られたことがあります。“よい”の基準は何なのでしょう？教員の指導力・教員の取り組み姿勢等を問われているとしたら大いに反省すべきです。しかし、これらのことは努力次第で変えられると思いますが、学校の所在地、学校を取り巻く環境等であればどうしようもありません。良い伝統を築くために努力を継続したいものです。

家庭や学校で大切なことは、“出来なかったこと・分からなかったことが、出来た・分かったという感動を与える”ことだと思います。そのためには、“地道に努力を継続する習慣”を身に付けさせるよう温かく厳しく見守ることが必要ではないかと考えます。厳しいと感じるのは、怠惰な自分の所為だと思いますよ!!